

令和7年度第1回岡山県スポーツ推進審議会 会議録

【開催概要】

- 日 時 令和7年9月2日（火） 10:00～11:40
- 会 場 岡山県庁9階大会議室（岡山市北区内山下二丁目4番6号）
- 出席者 <委員（会長以外：五十音順）>
三村会長、赤木委員、井上委員、居原田委員、上田委員、加賀委員、泉水委員、鳥越委員、長尾委員、松井委員、三宅委員、山本委員
※委員15人中、12人の出席であり、本審議会は成立している。
- <事務局>
環境文化部：國重環境文化部長
宮野文化スポーツ振興監
矢吹参与（おかやまマラソン担当）
松本スポーツ振興課長
子ども・福祉部：藤本障害福祉課総括参事
教 育 庁：片岡保健体育課長

1 開 会

2 挨拶

（環境文化部長）

- ・今年度は、7月23日から8月20日にかけて、中国5県を中心に「開け未来の扉 中国総体2025」が開催され、岡山県においても、岡山市、倉敷市、津山市、玉野市、総社市の5市で7競技が行われ、高校生のトップアスリートが熱戦を繰り広げたところである。
- ・9月には東京で世界陸上競技選手権大会が、また、11月にはデフリンピックが開催されるほか、2月にミラノ・コルティナで冬季オリンピック・パラリンピックが開催される予定となっており、世界を舞台に岡山県ゆかりの選手が活躍することを大変期待している。
- ・岡山県ゆかりの選手が世界で活躍していくことは、スポーツ・競技の枠を超え、岡山でスポーツに関わる全ての人々に大きな喜びと感動を与えるとともに、スポーツの持つ力で岡山を盛り上げていくと考えており、より一層スポーツの振興に取り組んでまいりたい。
- ・6月には、スポーツ基本法が制定後初めて改正され、国民生活におけるスポーツについて、スポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、支える活動に参画すること、スポーツに関し集うこと、スポーツを通じてつながることによって役割が果たされ、将来における我が国の発展のために不可欠な重要課題と明記されたところである。

- ・ 本日は、第2次岡山県スポーツ推進計画の目標に掲げる「『スポーツ立県おかやま』の発展」を目指し、計画の進捗状況についてお諮りするので、忌憚のない意見をいただきたい。

3 議 事 資料1

○第2次岡山県スポーツ推進計画の進捗状況（2024年度実績）について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

■質疑等

（※資料に沿ってまとめているため、必ずしも発言順ではない。）

①基本施策Ⅰ：多様な主体におけるライフステージに応じた運動・スポーツ活動の機会創出

（委員）

- ・ 「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合」について、全ての区分において増えていることは、ここ何年かの取組やアスリート派遣事業などの効果であると思う一方、「1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合」については、小5の男子・女子で増えている。
- ・ 運動やスポーツが好きな子どもは増えているが、運動やスポーツをする子どもは減っていることについて、考えられる原因があるのか。

（保健体育課長）

- ・ 「1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合」の時間数は、通学や体育の授業に係る時間を除く時間数である。
- ・ 運動しない子どもが徐々に増えており、我々も課題であると思っていることから、まずは運動が好きな子どもを増やして、運動の習慣化につなげ、ひいては体力の向上につなげていこうと施策を展開している。
- ・ 「運動やスポーツをすることが好きな児童生徒数の割合」が増えていることは、授業改善や施策の成果がある程度出ていると思うが、運動の習慣化にはつながっていないというところなので、今後は、運動の習慣化につなげていくには、どのようなアプローチが効果的なのかということを検証しながら、今後の施策に生かしていけたらと考えている。

（委員）

- ・ 運動やスポーツを楽しんでいる子どもたちが、ずっと楽しいと思ったまま成長して、運動やスポーツをする時間が、スマートフォンやゲームをする時間とは異なる楽しみを持てる時間になるよう、一歩踏み込んだ施策が出てくればと思うのでお願いしたい。

(委員)

- ・運動やスポーツをすることが好きな子どもの割合は増えているが、運動やスポーツが好きな子どもと、そうではない子どもの二極化が進んでいると思う。

(保健体育課長)

- ・運動やスポーツが好きな子どもとそうではない子どもの二極化は、今の社会構造的にどうしても進まざるを得ないというところがあると思う。
- ・学校に通っている全ての子どもたちに提供できる体育の授業や体育的な活動で、全ての子どもに運動が楽しい、好きと思ってもらえるような取組を行っているところである。
- ・走るのが遅い、マット運動ができない子どもにとっては、他の子どもの前で自分のできない姿・苦手な姿を見せてしまうという苦手意識を増やす要素があるので、授業改善によって、他との比較ではなく、運動そのものの楽しさや体を動かすことの喜びというものを味わい、運動が好き、楽しいと思える子どもたちを増やして、それを運動の習慣化につなげてまいりたい。

(委員)

- ・子どもたちが「やってよかった」や「ここはできた」というところをしっかりと評価していきたい。

(委員)

- ・「1週間の総運動時間数60分未満の児童生徒数の割合」について、部活動の時間は総運動時間数の対象になるので、運動部以外の子どもたちがこの指標の割合に入ってきていると思われる。
- ・SNSでの情報発信などに時間を取られている子どもが多いと感じているので改善したいと思うが、成果としてすぐに表れてこないところと、昔のように遊び場が地域にないことや暑さ、公園があってもボールを使っではいけないなど環境面も影響しているところがあるので、改善できるところがあればと思う。

②基本施策Ⅱ：アスリートの育成と持続可能な指導・支援システムの構築

(委員)

- ・「日本スポーツ協会公認スポーツ指導者登録者数」については、目標値を超えている一方、指導者の高齢化が進んでいるということであったが、指導者における年齢区分の比較は把握しているのか。

(スポーツ振興課長)

- ・年齢区分については手元に資料がないので、調べてから改めて回答させていただく。
- ・指導者の育成に係る課題については、岡山県スポーツ協会と連携を

図りながら、今後の施策を考えてまいりたい。

③基本施策Ⅲ：スポーツを通じたともに生き豊かさが実感できる地域の創造

(委員)

- ・「地域課題に応える取組の推進として学校との連携を行っている総合型地域スポーツクラブの割合」があるが、総合型地域スポーツクラブと連携することで、どのような地域課題を解決できたのか、また、連携によりどのような効果があったのかなど、具体的な内容を教えていただきたい。

(スポーツ振興課長)

- ・個別のクラブにおける内容ではなく、全体的な内容になるが、総合型地域スポーツクラブの指導者が学校の授業・行事や部活動で指導するなど、学校における授業・活動への協力という面で実績がある。

④基本施策Ⅳ：スポーツ環境の整備

(委員)

- ・数値目標や実績などの値に関しては、基本施策Ⅲの「県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を観戦した人の割合」など割合で設定している指標は、全体に占める割合なので、割合の算出に係る分母に影響を与えうる人口減少などの要因が踏まえられたものを目指すことになるが、「県営スポーツ施設利用者数」は、数量で設定されている指標なので、人口減少が進んでいる中で1割増を目指すことになる。
- ・これから更に人口減少が進むので、値を割合で設定する場合と人数で設定する場合で、実績値と目標値の乖離が大きく異なって、数値設定が今後難しくなっていくと思うが、そのことについてはどのように考えているのか。

(スポーツ振興課長)

- ・人数など数量で設定すると、人口減少や新型コロナなどの環境的な部分でどうしても影響が出てくることは認識している。
- ・「県内で行われたスポーツ大会やスポーツの試合を観戦した人」の割合について、目標値を25%とした意図は、県民の4人に1人は、スポーツを「みる」「する」「支える」の部分で、年間に1回程度は何かしていただきたいとの考えからであるが、施設利用者数など人数での目標設定については、意見を踏まえて、今後こういった目標の設定がいいかという視点を持ちながら、見直しも含めて考えていきたいと思う。

(委員)

- ・「スポーツ情報ウェブサイト『おかやまスポーツナビ』のアクセス数」については、実績値が前年度から少し減っているが、ウェブサイトは、昨年度の改修により見やすくなったと思っている。
- ・「おかやまスポーツナビ」では、スポーツ指導者と地域クラブのマッチング機能もあったと思うが、令和6年度において、このウェブサイトによりマッチングができたスポーツ指導者と地域クラブの実績数が分かれば教えていただきたい。

(スポーツ振興課長)

- ・ウェブサイトにはマッチング機能はあるが、マッチング後に地域クラブで実際に活動を始めた指導者数までは分からない。
- ・岡山県としても、マッチングの成果は把握していきたいと思っているので、岡山県スポーツ協会と相談してまいりたい。

(委員)

- ・成果の把握は必要であると思うのでお願いしたい。

4 フリーディスカッション 資料2 テーマ「運動部活動を取りまく環境について」

■事務局説明（スポーツ振興課長）

- ・フリーディスカッションは、様々な情報交換の場として令和元年度から実施している。
- ・結論を出すことを目的とするものではないので、自由に発言いただき、忌憚のない意見をお願いしたい。

■フリーディスカッション

(委員)

- ・学校において、障害がある子どもたちは、体育授業や運動をどのように行っているのか教えていただきたい。

(保健体育課長)

- ・障害をお持ちの児童生徒の体育授業は、障害の種類・程度によって変わってくるが、四肢に不自由があってランニングができない児童生徒がいれば、ランニングの代わりにその場で他の役割を担ってもらい、その子ならではの関わりができるよう各学校で工夫して取り組んでいる。
- ・特別支援学級にいる児童生徒については、通級で体育の授業に入って合同で行っているが、子どもは自分の能力に合ったできることを探しながら授業に参加している。

(委員)

- ・支援級の子どもたちが一緒にできるようルールなどを工夫して取り組んでいる。

(委員)

- ・ドッチボールをする場合には、やわらかい素材のフリスビー（ドッチビー）を使うことがある。

(委員)

- ・体育連盟の大会では、支援学校等に在籍の生徒も加盟いただいた上で出場できるようできる範囲で支援している。

(委員)

- ・障害者スポーツ教室を実施しているので、子どもたちが興味を持つ運動・スポーツと教室を結び付けてもらえたらありがたい。

(委員)

- ・学校部活動が地域に展開するということなので、岡山県の現状を教えてください。

(保健体育課長)

- ・少子化の進行などにより、単独の学校で1つのチームが作れず、複数の学校が合同で部活動のチームを組むということがある。
- ・これまで学校が担っていた部活動を地域に返していこうという取組として部活動の地域展開が進んでいる。
- ・総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団、また、どの競技のクラブが地域にあるかで関わり方が変わってくるので、なかなか一律のことが言えない。
- ・1つの場所に集まろうとしても、地域によって交通の状況が違うので、バスが必要なのか、子どもが自転車で行けるのかということも異なることから、12市町のモデル地域で課題を洗っているところである。
- ・よく言われるのが費用の問題であり、学校部活動では生徒側の費用負担がほとんどなく活動できていたが、今後もしクラブ活動になれば、受益者負担の観点で、生徒側から費用を徴収しなければならない。
- ・今年度、岡山県では、12市町のモデル地域において、それぞれの地域に応じた課題に対応した地域展開の在り方を模索している状況であるので、岡山県としてどう進めるかを明確にお答えすることは難しい。
- ・国において、令和8年度から3年間で改革実行期間の前期、その後3年間で改革実行期間の後期となっていることから、令和8年度から6年間で本腰を入れて進めていく期間になるので、そこに向けて我々も進めていこうという状況である。

(委員)

- ・昨年12月に国の中間報告があったが、スポーツ庁から各県のスポーツ推進委員協議会に意見を求められ、回答した20程度の協議会の中には、全く動いていないという都道府県もあったほか、課題として多かったのは費用の問題であった。
- ・一番大きな問題は、地域に指導者がいるかどうかということであると

思う。

(委員)

- ・全国で部活動の地域展開に取り組まれているが、課題が多くて進まないという話を聞き、その地域によって課題に違いがあるのが現状であると思う。
- ・大会への参加においては、地域の指導者にどこまでしてもらい、どのように大会に関わってもらおうのかというところを一緒に考えていかないと難しいと思う。
- ・部活動の地域展開は、大きな課題が多々あっても、最終的には子どもたちが運動や文化的な活動ができる環境を整えてあげようというのがスタートだったと思うが、「地域展開」という言葉ばかりが先に行って、学校はもう部活動をやらなくていいのだろうという認識を持つ人も増えてきていると見受けられ、課題を感じている。

(委員)

- ・部活動の地域展開には、働き方改革という観点もあるが、大切なのは子どもなので、子どもの意欲をそぐことがないような地域展開を実現していってもらわないと、競技力の向上や生涯スポーツの魅力を感じるということが実現できない。
- ・子どもたちを中心に置いて、岡山県の特色ある施策を推進してもらいたい。

(委員)

- ・学校部活動に依存するようなスポーツ振興は、これからは難しいと思うので、学校部活動だけに依存しない形でどういうスポーツ振興ができるのかを考えていく必要がある。スポーツ振興を所管する環境文化部（スポーツ振興課）と教育委員会（保健体育課）が連携して考えていく必要がある。
- ・少子化により合同部活動でなければ実施できない競技・種目も出てきている中で、地域クラブで活動しようにも場所、移動、時間など様々な課題があって難しい状況がある。これまでは教員がある意味ボランティア的に担ってくれていた対応が難しくなる状況も踏まえて、スポーツ振興をどう図っていくのかを考えていく必要がある。

(保健体育課長)

- ・我々も、まずは子どもたちのスポーツ文化芸術環境をいかに整えるかというところに重きを置いて、事業を推進している。
- ・まずは最初の3年で、土日・休日の部活動を学校でやめるが、平日の部活動については、国の方向性・動きを見ながら、我々も慎重に取り組んでいこうと思う。
- ・平日やっている部活動の延長が、学校以外で土日・祝日にできることが部活動の地域展開であるので、安価で、子どもたちに負担がかから

ず、充実したスポーツ文化芸術環境が整うような在り方の模索を各モデル地域で行っているところである。

(委員)

- ・地域で課題が違うので、地域の大人がどれだけ本気になってタッグが組めるかが大事である。
- ・今の環境を維持しながら、子どもたちが選択できる環境を大人たちがタッグを組んで作らないといけないので、大人たちが自分のエゴや自分がしてきたことに凝り固まっていたら進まないと思う。
- ・ダンスをやっている姿をティックトック (TikTok) などで発信している子どもが多いので、そういった媒体・アプリを活用して運動が好きな子どもを増やすような施策を展開できるのではないかと思う。

(委員)

- ・運動部活動には、体を動かすことによる楽しさ、健康、体力という側面、競技スポーツの基礎作りという側面、社会性を高めるという教育的側面という意味合いがあると思うが、地域展開により教員が関わらない中で、教育的な側面を担保できるのかという心配もあって、いろいろな意見が出てきていると思う。
- ・運動が好きな子ども、専門的な指導を受けたい子どもなど、子どもの希望も様々であり、その子どもたちを一塊にして考えてしまうと、子どもたちを見ていないということになってしまう。

(委員)

- ・熱量がある人、中心になる人がいないと続かないので、そういう人を地域でどうやってうまく育てていくかが大事である。
- ・スポーツ施設にいる指導者の上手な活用に加えて、受益者負担など家族の協力がある仕組みを作っていけば、地域展開は継続できると思う。

(委員)

- ・中学生の大会を見ていると、勝ち負けが極端にはっきりとする大きな点差で決する試合があって、楽しさ、競技力のどちらをより求めるかという違いでの二極化が更に進むのではないかという危機感を覚えた。
- ・学校での水泳も暑くてできないということがあり、泳げない子どもがますます増えて、大人になっても泳がないと、泳ぐ環境が作られない。
- ・暑さのほか、親による送迎の可否など、環境面でも子どもたちが二極化していく。
- ・子どもたちにとって厳しい環境であっていいのかと思うので、競技力向上やスポーツの振興という観点でも、暑熱対策は今後ますます必要になってくる。

5 報告事項 資料3

(1) 世界へ羽ばたくアスリート支援事業における令和7年度強化指定選手について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(2) 東京2025デフリンピック代表内定選手について

■事務局説明（スポーツ振興課長）

資料に沿って説明

(3) おかやまマラソンについて

■事務局説明（参与（おかやまマラソン担当））

資料に沿って説明

6 閉 会

（文化スポーツ振興監）

- ・長時間にわたる審議に感謝する。
- ・第2次岡山県スポーツ推進計画では、「誰もがともに『する』『みる』『ささえる』スポーツで明るい笑顔の生き生き岡山」をスローガンに掲げており、スポーツが有する価値を基本にして、引き続きスポーツを通じた地域の活性化につなげてまいりたい。
- ・本日いただいた貴重な意見を生かしながら、今後の施策に取り組んでまいりたい。